

# 水循環から見る堀川

名古屋城の築城にあわせて開削された「堀川」。明治期に延長された上流部は「黒川」と呼ばれていることをご存じですか？

鳥や魚など自然豊かな黒川沿いを歩きながら、歴史や水の流れの変化、水質浄化のための取り組みについて感じてください。

※明治9年から10年（1876～1877年）に、犬山と名古屋を結ぶ舟運と農業用水の取水を目的に開削されたのが黒川です。工事を担当した愛知県技師の「黒川治愿（はるよし）」にちなんで「黒川」と呼ばれています。

①庄内用水頭首工

②庄内用水元杵樋門

③瀬古元杵集水井

④瀬古橋上流井戸

⑤黒川樋門

⑥天然プールの碑

⑦御用水跡街園

⑧黒川友禅流し(辻栄橋周辺)  
辻栄橋井戸

⑨木津根橋

⑩水質環境値市民モニタリング看板(猿投橋)

⑪清水わくわく水

⑫ゴミキャッチャー

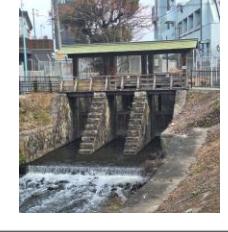
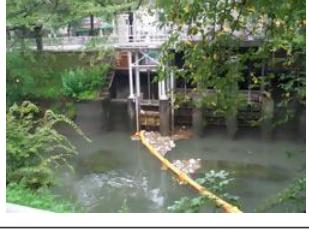
各ポイントの紹介は2ページ目をご覧ください！

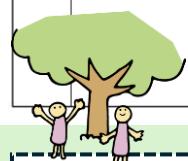
「水循環から見る堀川」は、  
なごや歴史探検アプリでもご紹介しています。  
アプリのダウンロードはこちらから↓  
「なごや歴史探検アプリ」

<http://geoalpha.jp/nagoya/>



# 水循環から見る堀川 各ポイントの紹介

番号	地点	写真	説明文	番号	地点	写真	説明文
1	庄内用水頭首工		河川から農業用水などを取水するために、河川を堰き止めて水位を上昇させ、用水路へ流し込む施設を「頭首工」と言います。明治10年(1877年)の「黒川開削」から、この場所で庄内川の水を庄内用水や黒川(堀川)に取水するようになりました。開削当時は、木柵と石積の仮堰が通水期間中だけ設置されていましたが、昭和29年(1954年)に現在の形となりました。庄内川本川のきれいな水を取水できるよう、左岸に沿って川の中に導流堤や、オイルフェンスを設置しています。	7	御用水跡街園		名古屋城は、周辺より一段高い平らな土地「熱田台地」の北西端にありました。築城当時この広い台地に降った雨が地中にしみ込み地下水となり、崖下で湧き出すほど湧水に恵まれており、お堀の水も自然の湧水を満々とたたえていました。築城から半世紀を経過すると、台地の上に城下町が造られ家々が立ち並び、台地へしみ込む雨水が減り、湧水の量も減っていきました。この問題を解決するために、寛文三年(1663年)に庄内川の水を名古屋城の内堀に引き入れる目的で水路が開削され、御用水と呼ばれていました。現在は、埋め立てられ「御用水跡街園」として整備されています。
2	庄内用水元枳樋門		取水や排水のために堤防に開けられたトンネルを「樋門」といいます。現在の「元枳樋門」は、黒川開削時に設けられた樋門を、明治43年(1910年)に改築したものです。人造石を使用した樋門としては名古屋に唯一現存するものであり、「名古屋市景観重要建造物」に指定されています。※昭和63年(1988年)に、新しく樋門が造られ、現在は使用されていません。	8	黒川友禅流し(辻栄橋周辺) 辻栄橋井戸		かつて、黒川沿いには多くの染色工場があり、黒川で友禅染ののりを落とす作業が見られました。現在は、春の風物詩として「黒川友禅流し」ののり落としの光景を再現するイベントが行われています。辻栄橋の少し上流にも、地下水を放流している井戸がありますよ。
3	瀬古元枳集水井(巨大井戸)		昭和22年(1947年)の大干ばつで水不足となった庄内用水の水量確保のために、翌年に造られた巨大な井戸(直径6m、深さ8m、井筒高3m)です。昭和27年(1952年)に使用を休止しましたが、堀川の環境用水として平成13年(2001年)に使用を再開しました。※庄内川から堀川への暫定導水が停止された場合に、毎秒20リットルの水を堀川へ放流しています。	9	木津根橋		昭和44年(1969年)に庄内川取水口から海までの区間が、一級河川「堀川」に指定されました。交差点や地下鉄の駅名だけでなく、昭和44年以前に造られた橋の親柱にも「黒川」の名が刻まれています。木津根橋の少し上流にも、地下水を放流している井戸がありますよ。
4	瀬古橋上流井戸		自己水源のない堀川の良好な水環境をつくるため、庄内川からの暫定導水(毎秒300リットル)とあわせ、川沿いに井戸を設置し、地下水を放流し水源を確保しています。瀬古橋上流井戸では、毎秒約10リットルの地下水を放流しています。このような井戸が、堀川上流部(瀬古橋～中土戸橋)に10か所設置されています。	10	水質環境値 市民モニタリング看板(猿投橋)		名古屋市では、平成17年(2005年)度から、市民モニターにご協力を頂き、水質環境目標値(名古屋市が独自で定めた目標値)の「親しみやすい指標」について調査をいただいています。詳しくは看板をご覧ください。
5	黒川樋門		庄内川から取り入れた水を黒川(堀川)へ分水するために明治時代に設けられた樋門です。黒川樋門は、明治初期の黒川開削時に原型ができ、明治末期の改築時に今の姿となりました。その後、取り壊されましたが、昭和55年(1980年)に現在の姿に復元され、当時の面影を残す水門となっています。名古屋市景観重要建造物に指定されています。	11	清水わくわく水		北清水親水広場にある、湧水井戸(愛称:清水わくわく水)です。堀川沿川に設置された井戸10か所のうちの1つで、毎秒0.5リットルの地下水を放流しています。
6	天然プールの碑		昭和42年(1967年)の矢田川伏越改修後に分水池が設けられ、黒川、庄内用水、御用水、志賀用水、上飯田用水に分水していました。分水池は天然のプールとして利用されていましたが、昭和52年(1977年)に姿を消しました。	12	ゴミキャッチャー		堀川に浮かぶゴミを自動的に除去する施設です。水面に浮かぶゴミをとることで、堀川や海の環境改善を進めています。



堀川について(名古屋市公式ウェブサイト)  
 ○堀川の概要  
<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/douro/1014806/1034763/1034764.html>  
 ○堀川の浄化について  
<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/douro/1014806/1034766/1014822/1034022.html>




健全な水循環の回復について(名古屋市公式ウェブサイト)  
<https://www.city.nagoya.jp/shisei/keikaku/1008387/1008424/1008768/index.html>  
 水質環境目標値市民モニタリング(名古屋市公式ウェブサイト)  
<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/kankyuu/1012555/1012556/1012557/index.html>